



壬生町政

住民登録人口

昭和44年12月1日現在	対前月比
総人口 25,396人	23人増
男 12,554人	18人増
女 12,842人	5人増
世帯数 5,415世帯	7世帯増

発行所 栃木県壬生町役場

(毎月24日発行)

昭和34年8月30日第三種郵便物認可

一部 7円20銭



火災期にそなえて消防点検

壬生町の消防団の通常点検は、十二月五日午前八時から壬生小学校庭で行なわれました。当日は、三分団二七名の団員が参加して機械器具の点検、服装の点検、ポンプ操法などが行なわれました。

放水試験は藤井橋下流で全分団が高々と放水、その後壬生駅前通で分列行進を行ないました。

またこの日、名誉ある表彰を受けた方々は次のとおり

県消防協会会長賞

功績章

副団長 藤沼三典

同下都賀支部長賞

功績章

五力年永動統者 早乙女英三ほか一七名

壬生町長賞

功績章

十力年永動統者 荒川軍司

壬生町長退団者感謝状

大橋志郎ほか五九名

壬生町長賞

早期発見

消防団に協力

中村義一(助谷原)
田村政一(北小林)
森 輝男(万町)
鈴木 隆(下福栗)

一月の納税
お忘れなく
町県民税 第四期分



遺児手当の支給条例を制定

— 十二月定例町議会 —

十月の定例町議会は、十二月十日から十五日までの六日間にあつては後援場で開かれました。今の議会では、父母のいない児童に対する遺児手当支給条例の制定を始め、数々の議案が上程され、いずれも原案どおり可決されました。

遺児手当の支給条例を制定

この条例は、壬生町が父母の一方または両方が死した児童について遺児手当を支給することにより、児童の健全な育成及び福祉の増進を図ることを目的として制定されたもの。

この意見とは、義務教育が終るまでで、すなわち中学校卒業するまでです。対象となるのは、壬生町に住んでいる人に限られてい

ます。手当額は月を単位として支給され、その額は一月につき二千元、親が町から贈られます。

この制度は、昭和四十四年十月一日から実施されることに決定されました。

特別職報酬等審議会の委員が十名に

議会の議員の報酬や町長、助役、収入役の給料の額に関する条例を議案に提出しようとするときは、あらかじめ審議会の意見を聞き決定されます。

その審議会は、今まで五名の委員で組織していましたが、今年十名の委員となり、五名が追加されました。

一般会計を補正

昭和四十四年度の一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれ二千二百八十二万二千円を追加し、それぞれ四億七千九百七十五万五千円となりました。

その主な理由は、歳入では町税、民支助金があり、歳出では総務費、民生費、衛生費、農林水産業費、土木費、教育費など事業充実のために補正したものです。

昭和四十三年度の決算認定、昭和四十四年度の一般会計をはじめ、三つの特別会計が決算となり今議会に上程した結果、各関係常任委員で検討された各委員長から認定の報告があり、全会計が決算認定となりました。

一般質問
一般質問は四人の議員から十二の質問が提出されました。

六美地区市街化区域編入に関する請願
これは関係常任委員会に付託されました。

監査委員に高田氏
十二月二十一日で任期満了とな

る監査委員島崎正左門氏および細金平の両氏は、今議会で細金平氏の辞任により、後任者として議会の同意の結果、高田義雄氏が選出されました。

島崎正左門氏が再選されました。

大半が錠のかけ忘れ

防犯診断行なう

暮おしよつた十二月十日、警察署では、午後八時から壬生町管内の三五九戸を対象に、歳末防犯診断を一行に実施しました。

この防犯診断は、年末をひかえ盗難事件があらちで発生しているため、警察署が消防団、役場から荒川助役ほか五名、栃木警察防犯課職員、計〇名の協力を得て管内を四班に分け、診断が行なわれました。

その結果、診断戸数三五九戸のうち全体の四〇パーセントにあたる三九戸が戸締りの不良として注意されました。



防犯診断の様子

家庭奉仕員を募集

町では心身の障害により日常生活に支障のある老人で義援に欠ける家庭に対し身の廻りの世話や相談、助言をしていただく家庭奉仕員と次のように募集しております。

希望者は、履歴書を一月十五日までに役場総務課へ提出してください。

共同募金
ありがとう

赤い羽根で親しまれている共同募金は、かねがねお願いしておりましたが、このほど目標額六七六、四〇〇円をはるかに上回る六四一、八四三円が集まりましたので報告します。

法人募金額 二一、七〇〇円
個人募金額 四七四、九七三円
これによって、町民の困っている人たちが明るい正月が迎えられることとしてしよう

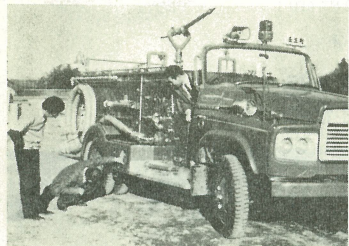
日赤募金
目標額 三六五、四〇〇円
実収金額 三六五、四〇〇円
特別募金額 三五五、二四六円
法人募金額 七、〇〇〇円
役場募金額 三、一五四円

消防タンク車を購入

役場職員消防隊

役場職員消防隊 荒川隊長で、百五十五万円で購入。これは、県下の町で初めての化学薬用の大型消防タンク車を十一月十九日購入、その入魂式が行なわれた。

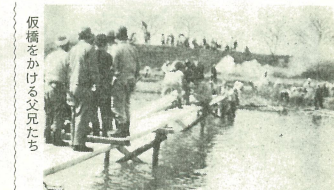
同消防隊は、本年四月一日から発足され、火災時にはいち早く出勤して消火にあたっています。町では、住民の生活様式の向上や工場団地の造成などに伴う化学火災に備えて、予算も計上し二



購入した大型タンク車

P.T.A.が総出で仮橋かけ

来年三月までの臨時通学道



仮橋をかける父兄たち

壬生小と壬生中では、東雪橋(し)のめ橋の交通混雑による事故の危険から子どもたちを守ろうと壬生小PTA(会長荒川義雄)壬生中PTA(会長鈴木部夫)をはじめP.T.A.約三百人の協力で、東雪橋下流約百メートルにりつぽな仮橋を新設しました。

東雪橋は黒川東側の三好町、旭町、星の宮の三町内の児童、生徒たち約二百五十名が通学路として利用しており、最近通学路宮宮、栃木線の交通量が激しく、登下校の際常に危険に晒されてきた。

体験談募集

あなたが家計簿を通して体験し感じたことをこのまま文章につづって応募ください。

◆主 催 栃木県貯蓄推進委員会
◆後 援 N.H.K.
◆原 稿 四百字詰原稿用紙五枚以内、そのほか簡単な表
◆締め切 昭和四十五年五月末日
◆送り先 栃木県貯蓄推進委員会(宇都宮市堀田町県庁総務部広報課 内)
◆入選発表 昭和四十五年六月頃
農耕作業自動車
の申告は
通称タイプ型トラクターまたはハンドトラクターといわれていた軽自動車としての申告についてお願いいたします。
農耕作業用自動車に機械を付けず、トラクタを使用している人がおり、また、小型トラクタに農用トラクタを取付けたものは、陸上を移動させることを目的として製作されたものと解され、軽自動車として申告しなければなりません。
また申告をしていない人は役場住民課窓口で申告用紙がりますから、印かんを持って申告してください。

お知らせ



年末年始の

役場事務

昭和四十四年もあとわずかにな
って新年を迎えることになりまし
た。

年末年始の役場事務は次のとお
りです。ご了承ください。
ただし、特別の戸籍事務（死亡
届、死産届）などは行なっており
ます。

◆十二月二十八日 ご用納め

◆十二月二十九日 一月四日まで
休ませていただきます。

◆一月五日 ご用納め

この日から一般事務を行ないま
す。

◆一月五日は恒例の新年祝賀式を
行ないます。

◆ゴミ集めの運休は

年末年始にかけてゴミ処理とし
尿清掃作業を次のように休みます
からご協力ください。

・ゴミ処理作業の休み

十二月三十日、三十一日、一月
一日、二日、三日、四日、五日の
七日間は休みです。

・し尿清掃作業

十二月三十一日、一月一日、二
月三日の四日間は休みです。

救急車出動状況

(11月中)

件数	死者	傷者	急患
5件	1人	9人	1人
(累計29件)	(累計6人)	(累計51人)	(累計18人)

酒飲めば

愛車が凶器に 早変り

成人式にはふだん
着で

一月十五日は成人の日です。町
では中央公民館で二十歳を迎えら
れた人たちの前途を祝う式典が行
なわれます。

そこで最正式典に臨む方々（特
に女子の方）の服装が年々華美に
なる傾向があり、各方面から種々
の批判の声もあります。

このことについては、去る三月
に社会教育委員会の会合において
各種団体の方々から意見が出され
成人式にはできるだけ軽装で出席
しようとして申し合わせをしました。
今年成人の日を迎えられるみな
さん、式典の真の意義を理解して
軽装で全員が出席されるようお願
いします。

身障者でも運転免
許証を

県交通安全協会および県自動車
学校では、身体障害者の方々に自
動車の運転免許証が取得できるよう、
十一月一日から実施されています。
一、普通自動車免許に限り、
二、特殊自動車が一台につき予約
制

三、実地試験は免除されない
四、費用は通常の場合三、五〇
〇円

入学金 五〇〇円

技能 二九、七〇〇円

学科 三、〇〇〇円

教科書代 三〇〇円

なお、入学手続など詳細につい
ては、栃木県自動車学校（宇都宮
市宮原町二の九七、電話五八

一三六二番）に照会してください。

運動免許の出張
試験

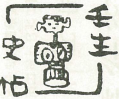
栃木警察署では、一月六日から
原付自転車と小型特殊自動車の出
張試験を行ないます。

◇場所 栃木市中央公民館

◇種類 原付自転車五〇cc以下
小型特殊自動車 耕運機

一月六日から講習開始 以後試
験を行ないます。

希望者は栃木警察署へお申込く
ださい。



110

古墳時代(二)

古墳の形式は、いろいろあるが
普通最も多くあるのは、円形を
した円墳、重塚という、前方
の前方後円墳（ひさこ塚とい
う）とである。各

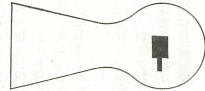
々その盛り土
の中に甌土
の間に甌土
体が安置さ
れていたこと
り土の中には
（玄室遺体を
おく）、そ
の入口の狭道
とがありこれ
等が多くは石
組といつて石
組のものが
多い。



円墳 (平面図)

壬生市車塚は円墳としては地方
の代表例のもので、城内の面積
が一町五畝五歩あり、愛宕塚は城
内の面積が九反四畝九歩ある前方
後円墳としては、これ亦代表的の
ものである。

古代の埋葬は葬の字の示す通り
死骸を草の上において、草をかぶ
せた。これが仏教渡来以前の埋葬
の形式で火葬などは仏教渡来の以
後のことである。



前方後円墳 (平面図)

先年藤井古墳群の一部が、本町
教育委員会を中心として発掘され
金メッキ耳環、ガラス小玉、刀子
須恵器が出土
した。石部は
川原の石で積
まれた積石式
で、指定され
た古墳より後
代のものと思
われる。

仁徳天皇を
葬った百舌鳥
の耳原の御陵はほぼ八百余米四方
あって、世界最大の墳墓と言われ
ているが、その造築には大約五千
人の労働者が毎日一年間かかった
と計算されている。壬生町の諸古
墳はそれとは到底比較にならない
の地方としては実に偉大な古墳
であり、高く土を盛りあげ障を掘
り、遠くから巨石を運んで作りあ
げたもので、幾つかない当時とし
ては大土木事業であつたらう。そ
こでこの大古墳は何時、何何人を
葬つたものであろうか。（福田）